

出題意図

設問 I

平成29年に告示された学習指導要領では、育成を目指す資質・能力を、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の3つの柱に整理するとともに、目標や内容についても、これらの柱に基づき再整理を行っている。3つの資質・能力を育成するために、各教科等の目標の冒頭では、教科等の特質をふまえた「見方・考え方」を働かせ、「活動」を通すことを柱書として示している。その柱書は、教科等の特質をふまえた「学習過程」について述べているものである。

【問1】では、各教科等の目標の柱書にある「見方・考え方」を働かせ「活動」を通すという学習過程について、特定の学校段階での教科等を設定し、教科等の特質をふまえた学習過程について、具体的な学習内容を取り上げ、自分なりの説明することを求めるものである。

解答では、教科等の見方・考え方と活動との関係を踏まえつつ、学習過程について、各自の考えを説明していれば正解である。

【問2】では、「見方・考え方」を働かせ「活動」を通す教科等の特質をふまえた学習過程において、3つの資質・能力がどのように育成されうるかについて、【問1】で取り上げた特定の学校段階での教科等において、具体的な学習内容を取り上げて自分なりの説明することを求めるものである。

解答では、教科等の特質をふまえた学習過程と、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養がどのようにかわりうるのかについて、各自の考えを説明していれば正解である。

解答例または出題意図

設問Ⅱについて

【問1】の出題意図と評価の観点

「今日的教育課題への研究知見活用の最大化」についての総合的判断を問うものである。①知見の正確な理解に基づき、自身が経験した子どもとの関りを振り返り、問題解決にどのように役立つかを一定妥当に判断する力を評価する。知見の価値を生活上の軋轢事象に遭遇して、解決できない状況の継続がもたらす弊害への示唆と捉えれば、不登校・いじめ・学業不振・親子関係の軋轢・自己肯定感や効力感の低下、等々、今日的话题から生じる二次的問題の理解と対応に有効な示唆を得ることができる。②その上で、1967年と2016年の研究視座と方法論の違いから、研究対象となる現象が同じであっても、視座や方法が異なれば、「現象」に新たな意味や価値が生み出されることに着目し、教育課題へのアプローチには、教育一領域に拘泥せず、隣接諸科学の視座や知見を融合させた問題の理解・再理解が課題解決に有効であるとの考えに言及することを期待する。

研究知見活用の最大化に関する総合的判断について、教育実践研究の出発点は現場の問題意識から発せられる「疑問」であり、教師や教育関係者が抱く臨床上の疑問である。疑問は新しい知識・知見に伴い変化するものであるから知識・知見の活用能力は重要である。実際の研究立案に向けては、臨床的疑問を洗練させ、研究的疑問として明確化していくプロセスが必要となるが、この過程では研究的疑問は個々の事例に基づく臨床的疑問の共通性を明確化し、一般化を目指すものと言える。この過程において、知見を適切に活用すれば解決に役立つが、活用の不適切さも指摘されている。即ち、「知見の使われなさ過ぎの問題」と一般化されたエビデンスを個々の臨床判断に無理に押し込もうとする「知見の使われ過ぎの問題」があり、これらが混交している。医療において、McGlynnらは、米国ではエビデンスに照らして適切な医療が提供されている患者の割合は約5割に留まること（「使われなさ過ぎ」）を報告している(2003)。他方、「使われ過ぎ」には、臨床場において一般論であるエビデンスが常に優先され、臨床家の経験に基づく判断を不当に低く見るような傾向がある。レベルが高いとされる研究によるエビデンスであっても、あくまでも一般論として質が高いものであり、個々の臨床では、臨床家の専門性と経験、患者の価値観と研究知見を併せた総合的判断が必要と指摘される(Muir Gray ; 2005)。知見活用に関する総合的判断には、上記の論点が考慮されることが望ましい。

【問2】の出題意図と評価の観点

自身の子どもの関りの経験に即して、知見を通した課題の発見と分析、これを踏まえて問題を定義する能力を評価する。設問で提示した知見は、生活上の軋轢事象に遭遇して、行動・努力しても問題が解消・改善されない状況が継続するとどのような状態に陥るのか、この状態から脱却(回復)し、これに陥らない(予防)ためには、子どもは何を・如何に学習すべきか、指導者は子どもの学びにおいて何を如何に支えるのか、の臨床的疑問に示唆を与える。子どもが置かれる問題状況を発見し、分析して何が問題なのかを定義し、これに基づき支援方法を策定する一連の思考過程を評価する。